

sSOFASの使い道

2017年5月2日

井出草平(大阪大学)

目次

1. 臨床評価・サービスの効果計測
2. 経済効果の測定
3. 問題を抱える人々の発見
4. 地域の社会的機能の計測

1-1 臨床評価

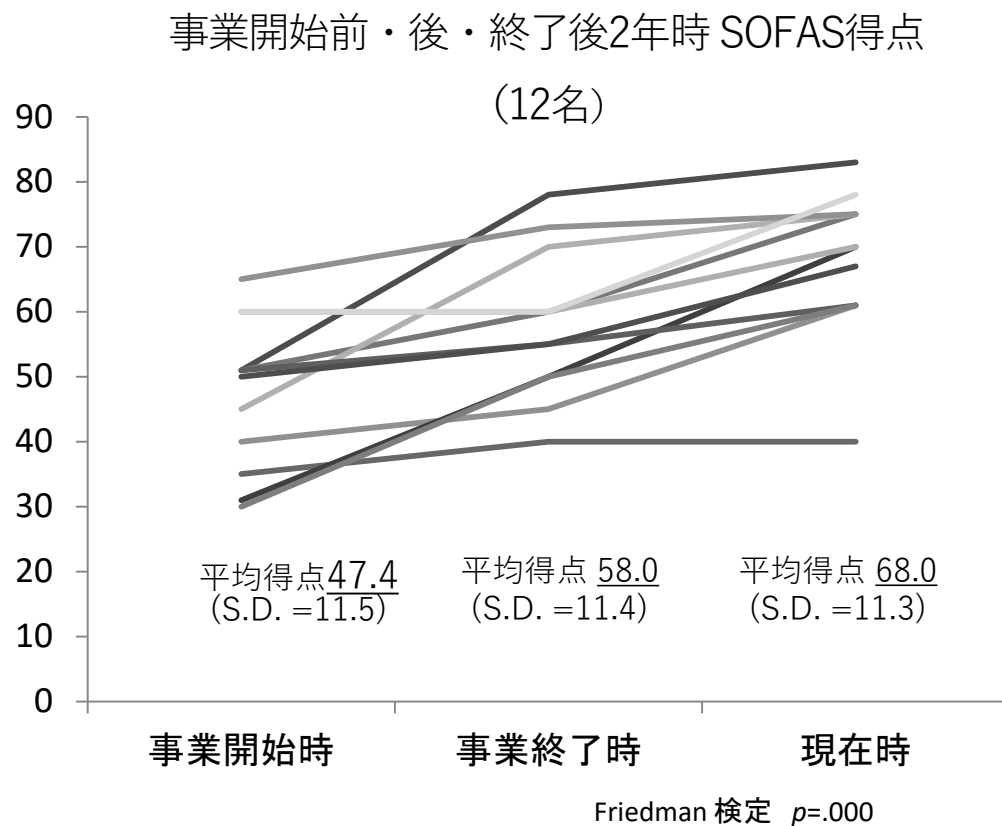
- 状態の評価
- 介入や観察の評価

淡路プラッツでのトライアル
事業内容

大阪府の雇用基金事業を財源に半年間に渡って就労をするプログラム。特徴は、給与・社会保険加入をするところ。事業第1期（平成21年11月～平成22年3月）の事業に参加した者を対象に計測。

計測時点は「事業開始時」（21年11月）「事業開始後」（22年3月）「終了後2年」（24年2月）の3点である。

1-2 淡路プラッツの計測結果



2-1 経済効果の測定

- 活動を投資として計算する
- 基本的なROI(Return on Investment)モデル

$$\text{ROI} = \frac{\text{活動による社会的利益}}{\text{サービス投資額}} \times 100$$

- さらに社会参加による利益、納入税金、消費、生活保護予定率などを投入
- SOFASによって全ケースの効果を計測

2-2 地域活性化の効果

- 地域振興の効果(投入金額に比べて)
 - 観光(成功例)1.5倍程度
 - 公共事業は1.1倍程度
- 若者支援による経済効果の波及効果
消費(持続性)、税金の納入(持続性)、産業の復興・維持(持続性)、福祉財源の現象効果(生活保護等の予防)
- 一般的な地域活性化政策より「人づくり」の方が効果が大きいかもしれない。公的助成金の根拠になるかもしれない。

3 問題を抱える人々の発見

- 地域の調査を行う
- 家族の1人が代表して答える
… 3人家族であれば手間が1/3になる
- SOFAS: 60(65)以下について二次調査
- 二次調査の該当者(現役世代)
ひきこもり・不登校・未治療の精神疾患・適切な社会福祉サービスにつながっていないケースなど。
- 横断的に問題にアプローチができる

4-1 地域の社会的機能の計測

- 地域のSOFASは地域の「元気さ」
 - 社会的活動・コミュニケーションがない
→元気のない地域
- 既存の地域活性化の指標は統計指標を使った経済的評価が中心
- 地域活性化は住民の活性化ではないか
(地域が「元気」になること)

4-2 SOFASと政策との関連

- ひきこもり等困難層の発見と介入
- 既存福祉サービスの利用で低機能の者
 - 社会生活を妨げているものの発見と解決
- 現役世代の転入者の効果
 - 人口増減・現役世代加入によるSOFASの上昇だけではなく既存コミュニティへの効果を計測
- 健康寿命増進
 - SOFASが低いと健康寿命が低下する
 - SOFASの低い地域・人の特定と介入効果の測定

4.参考 既存の地域活性化の指標

- 農山村自治体の地域活性化診断（橋爪2003）
 - － 人口増減率、一人当たりの工業出荷額・課税所得額など44の統計指標を使用
- 農林統計協会(2009)
 - － 農業の統計データから算出
- 橋爪登(2003)「農山村自治体の地域活性化診断」
- 農林統計協会(2009)「地域活性化のための農業集落データ分析委託事業」

4.参考 既存の地域活性化の指標の問題点

- 既存の指標は経済的項目が中心
 - －人の活動に着目していない
- 産業構造に特化している(特に農業)
 - －農業だけではなく林業をはじめ様々な産業がある。
- 自治体間比較が目的
 - －自治体内のことは分らない
 - －問題がある場合も介入する個人が特定できない